



看護キャリア発達に向けての 学会の役割

わが国の医療改革として、少子高齢化の進展、医療技術の進歩、国民意識の変化等により医療システム全般の見直しが求められ、看護の役割拡大も徐々に始まっています。看護教育の大学化は、看護の生涯教育をも著しく進展させ、看護系学会の会員数や研究発表からも、学術的な進歩は著しく、看護の専門性は着実に向上してきていますが、わが国の看護は、今再び、看護の生涯にわたる教育や制度を考える機会であると言えます。

このような時代背景を踏まえて、看護系学会は、看護キャリア発達に様々なかかわりを持ち、看護者個々人に影響をもつと同時に看護全体への看護の質向上への期待がかかっています。看護系学会は、今後の学会の役割やあり方を考える機会として、第11回の看護系学会協議会シンポジウムを開催します。

2009年 11月 28日(土) 15:30-17:30

幕張メッセ・国際会議場コンベンションホール

- 司会 : 野嶋 佐由美 遠藤 俊子(日本看護系学会協議会)
シンポジスト : 小松 浩子 (日本がん看護学会)
数間 恵子 (日本糖尿病教育・看護学会)
片田 範子 (日本小児看護学会)
後援 : 日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学分科会